学びの広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

●公民館活動　●生涯学習
●文化振興　●学校　●スポーツ

「浜辺の歌」ゆかりの地に歌声響く

～浜辺の歌音楽館少年少女合唱団出演～

浜辺の歌音楽館少年少女合唱団が、11月27日に神奈川県藤沢市で開催されたＪＲ東海道線辻堂駅開設100周年を祝う記念イベントに出演し、成田為三の楽曲を披露しました。

辻堂駅は「浜辺の歌」を作詞した林古溪（こけい）が歌詞をイメージしたとされる辻堂東海岸の最寄駅で、この度、駅の発車ベルに「浜辺の歌」が採用されたことから、作曲者の生誕地の合唱団が出演したものです。

同合唱団は祝賀イベント「浜辺の歌コンチェルト」に出演し、成田為三の代表作「赤い鳥小鳥」、「秋田県民歌」などを披露したほか、藤沢市のすずかけ合唱団と「浜辺の歌」を合唱し、交流を深めました。

▲藤沢市で成田為三の楽曲を披露する合唱団

まなぼう・あそぼう・つたえよう

～生涯学習フェスタ2016～

生涯学習フェスタ2016が、12月17日に市民ふれあいプラザで行われ、ステージ発表や体験コーナー、作品展示などで日頃の学びの成果を披露しました。

会場では、講座受講生や講師による「ねまーるつみき広場」や「子ども将棋教室」「Ｇちゃんの健康吹き矢教室」「きりこのペンダント作り」のほか、秋田北鷹高校科学部による「指ハブ作り」などの多彩なブースでたくさんの参加者が体験を楽しみました。

また、障がい者生活支援センター「ささえ」やアコースティックバンド、北秋田鷹巣祇園太鼓振興会などがステージ発表を行い、子どもから高齢者まで幅広い世代の参加者が学びと交流の輪を広げました。

▲秋田北鷹高校科学部による指ハブ作り体験

県民運動50周年記念知事感謝状を受贈

～青少年の健全育成に貢献～

平成28年度青少年健全育成秋田県民会議の青少年健全育成県民運動50周年記念知事感謝状を受贈した千葉文吉さん（花園町）が、11月28日に市役所を訪れ、津谷市長に受贈を報告しました。

千葉さんは、長年にわたり青少年育成北秋田市民会議の会長を務めるとともに、子どもたちへのあいさつ運動や中学生による「私の主張」、子どもたちの伝承芸能発表会の開催など、青少年の健全育成活動の推進に尽力されました。

報告では「成果の見えにくい活動だが、街中で元気にあいさつする子どもたちを見ると着実に浸透していると感じる」と35年の活動を振り返りました。

▲市長に知事感謝状の受贈を報告する千葉さん

冬の笑楽校（しょうがっこう）

開催日　1月11日（水）
会場　市民ふれあいプラザ
参加費　高校生以下500円、一般700円
締切　1月6日（金）／**定員**　30人
【時間割】朝の会　8時50分～9時

1時間目	**英語**　9時～9時50分「ショーンさんの楽しい英会話」
2時間目	**総合学習**　10時～10時50分「秋田銀行出張授業」
3時間目	**家庭**　11時10分～12時30分「調理実習」
昼休み	**給食**　12時30分～13時30分「3時間目に作った料理を食べよう」
4時間目	**理科**　13時30分～15時「スペシャル理科実験」

○スクールバスを運行します
《行き》大阿仁公民館7時20分→**阿仁公民館**7時40分→**森吉公民館**8時10分→**合川公民館**8時25分→**ふれあいプラザ**8時40分
《帰り》ふれあいプラザ15時20分発

問申　生涯学習係　☎62-1130

合川公民館第1回ろばた講座

問　合川公民館　☎78-2114

日時　1月17日（火）　13時30分～
会場　合川公民館
演題　「愛郷心を貫き、いかに実践するか」
講師　亀谷健樹氏（太平寺前住職・詩人）

阿仁公民館公開講座

問申　阿仁公民館　☎82-2220

■切り絵講座～夢あかり～

紙パックを利用して、美しい灯ろうを作ってみませんか。

日時　1月26日（木）、2月9日（木）　10時～15時
会場　阿仁公民館
講師　石田テル氏
材料費　1000円
締切　1月19日（木）／**定員**　10人
持ち物　はさみ、定規、マスク、昼食、1リットルの牛乳パック2個

放課後児童クラブの募集

問申　生涯学習係　☎62-1130

放課後児童クラブは、保護者が仕事などで日中留守になる家庭に代わって、子どもたちに安全な生活の場と遊びの場を提供しています。

対象児童　就労等により、保護者が日中家庭にいない小学1年生から6年生までの児童
申込み　1月13日（金）までに入会希望の児童クラブへお申込みください。
※現在利用されている方も、改めて申し込みが必要です。
提出書類　①児童クラブ入会申込書　②児童票
※提出書類は、各児童クラブ、各公民館に設置しています。

ふるさとの文化財

「縄文時代編」――14

○鳥形土製品（二重鳥（ふたえどり）B遺跡出土）

今年の干支「酉（とり）」にちなんだ鳥の形の出土品を紹介します。

二重鳥B遺跡は、森吉山ダム建設事業に先立ち調査された遺跡で、縄文時代後期後半（今から約3500年前頃）を中心とした土偶などの出土品が見つかっています。

その中の一つが写真の鳥形土製品で、頭から首にかけての部分となりますが、とがった嘴（くちばし）や丸い目から鳥が連想されます。

その形から把手（とって）として土器の一部に付けられていたか、鳥の姿をした動物形の土偶の頭部と思われますが、残念ながら詳細は不明です。市内で鳥を表現したと考えられる出土品は、これ一点しか見つかっていません。

他の時代、地域では、古墳時代の埴輪（はにわ）の中に明らかにニワトリや白鳥などの水鳥を表したと分かるものがありますが、縄文時代はその形や特徴からカモなどの水鳥やミミズクと思われる土偶が出土しています。

この鳥形土製品は、一体何の鳥を表したものでしょうか。詳しく見ると嘴は短くややつまり、カラスのようです。

しかし、首と頭の分かれ目が明瞭で、頭の後ろが突き出ており、キツツキのような印象を受けます。キツツキの嘴は細身ですが、後頭部の特徴からキツツキ、市の鳥であるクマゲラとしたい気がしますが、いかがでしょうか。

また、目の回りに渦巻き形の模様の縁取りがあり、雄のヤマドリなどを模したものとも考えられますが、推測の域を出ません。

二重鳥B遺跡近くの漆下遺跡ではキジ類の骨が出土しており、鳥が食糧として利用されていたと推測されますが、それとともに鳥を特別な存在としてとらえ、それをかたどったモノに何かしらの意味を込め、祈ったものと思われます。

▶左側面

▶右側面

▽紹介者／北秋田市教育委員会生涯学習課文化係